

バイクの音



21歳の時、片岡義男の小説にあこがれて中型自動二輪免許を取得しました。あるライダーがツーリングの途中で白飯を購入し、レトルトカレーをエンジンにガムテープで張り温めて食べるというシーンにあこがれました。現実には切なく、テープが溶けて不可能であった記憶があります。

私はそもそも自動車もそれを運転することも嫌いでストレスがたまります。以前、雑巾がついたモップで車をめんどくさそうに拭いていて通行人に笑われたこともあります。一日中全く自動車を運転しなくてよい日が私にとっての「休日」と言えるでしょう。そんな私が先日もイヤイヤ運転をして赤信号で停車していると、横にハーレーダビッドソンがやってきました。何と心地良い音でしょう。いつも聞き入ってしまいます。もう何十年もバイクに乗っていませんが、大型の免許を取得して、いつかはあの鉄馬の「心臓音」を独り占めしたいのが還暦前の密かな私の夢です。

そんな時、私の中学の同級生の家の前を通ると、玄関前に今までなかった大型バイクが2台並んでおり、彼がそれを楽しそうに磨いていました。声をかけてみました。息子の大学へ最後の授業料を納めて、「ああ～、これでいつでも会社やめることができる！」と叫んで、奥さんと2人で自動二輪免許を教習所へ取りにいっ

たそうです。現在は毎週末に二人でツーリングを楽しんでいるそうです。最後の授業料を納めた「解放感」は痛い程わかりますし、それがバイクと結びつく「鉄馬方程式」も理解できます。最近は何の同級生に会えば「親の介護」の話ばかりでうんざりしていましたが、彼とは久々の晴れ晴れとした話をしました。

先日、NHKの『ドキュメント 72 時間』という番組で、バイク人の「聖地」とまで言われている都内で一番大きな「バイク用品店」を取り上げていました。この番組は、ある一か所でカメラを回し続け、そこを訪れる人々の「人間模様」を描いたもので、毎回「切なさ」が余韻に残ります。広い駐車場に、まるで展示場のよう買い物客の多くのバイクが駐車されています。そんな中、8歳のかわいらしい女の子が父親の大型バイクを一生懸命磨いています。父親は買い物中のようです。いつも父親のバイクの後ろに乗せてもらっているようです。バイクがエンジ音を響かせ動き始めると、彼女はいつも「説明できない眠さ」に襲われてすぐに心地良く眠ってしまうそうです。インタビューに対して、「お母さんのお腹の中にいる時みたいな音がするから」と答えていました。以前から、お腹の中にいた時の記憶が残っている人の存在は聞いたことはありましたが、こうして目にしたのは初めてで、どんな大人になっていくかが楽しみな子でした。やはり、詩人かな… 落車しないように父親の体とベルトで結ばれた彼女の後ろ姿が夜道に消えていきました。きっと、父親の背中の臭いも記憶に残るのでしょうね。イイね！

俊徳丸